

教育課程とカリキュラム

愛知教育大学は、広域の拠点的作用をはたす教育大学として、人間理解と真理探究に努め、教育が直面する現代的課題への対応力を有し、子どもたちの未来を拓くことができる豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた専門職業人の養成を使命としています。この使命を達成し、ディプロマ・ポリシーに基づいた学生を育成するために、全課程の学生が受講する「共通教育科目」と、学校教員養成課程・教育支援専門職養成課程それぞれで学びを深める「専門教育科目」で教育課程を編成・実施しています。

全課程の学生が受講する科目です

共通教育科目

- 教養科目
- 外国語科目
- 日本国憲法
- スポーツ科目
- 情報教育入門
- があります。

教養科目の科目群	基礎 教養科目	<p>初年次演習、キャリアデザイン科目</p> <p>多様な学修歴を有する入学者に対応できるように、大学生活や社会に出る準備段階としての学修意欲を高め、学習規律を身に付けます。</p> <p>課題探究科目（市民リテラシー／多文化リテラシー／科学リテラシー／ものづくりリテラシー）</p> <p>学校現場で求められている「課題を発見する力」「情報を読み取る力」「複眼的に物事をとらえる力」「他者と協働する力」「解決に導く力」等の主体的な問題発見及び問題解決能力や能動的な学修活動能力を育成します。</p>
	教育実践 教養科目	<p>教職教養科目（教職論／教育原論／特別支援教育基礎／発達障害のある児童生徒理解基礎）</p> <p>教育実践を支える職業人の役割について考えるとともに、新しい持続可能な社会に向けた、ユニバーサルデザインの学校教育の基盤について、多面的に捉えて理解します。</p> <p>現代的教育課題対応科目（ジェンダー・セクシュアリティと教育／外国人児童生徒支援教育／情報の活用と管理／学校保健・学校安全）</p> <p>学校現場で対応の要望が高まる外国人児童生徒支援教育、学校安全等を題材に、新しい教育の機会均等やマネジメントの在り方について探ります。</p>
	実践力育成科目	

実践力育成科目は、子どもの生活実態を知り、子どもとのコミュニケーション能力を養い、感性を磨くなど、教育実践を支えるための実践力を高めることを目的としています。入学後早い段階で、居住地の小中学校等を訪問して体験的に児童生徒の学びや学校生活に触れる「学校体験活動入門」を行い、2年次は、県内の教育施設等にて、教育活動の補助を週1回のペースで実践する「学校体験活動Ⅰ」があります。3・4年次は、「学校体験活動Ⅱ」、「地域協働教育体験活動」の2科目から1科目を選択し履修します。



先輩Voice



学校教員養成課程 義務教育専攻
音楽専修2年
学校法人同朋学園同朋高等学校出身

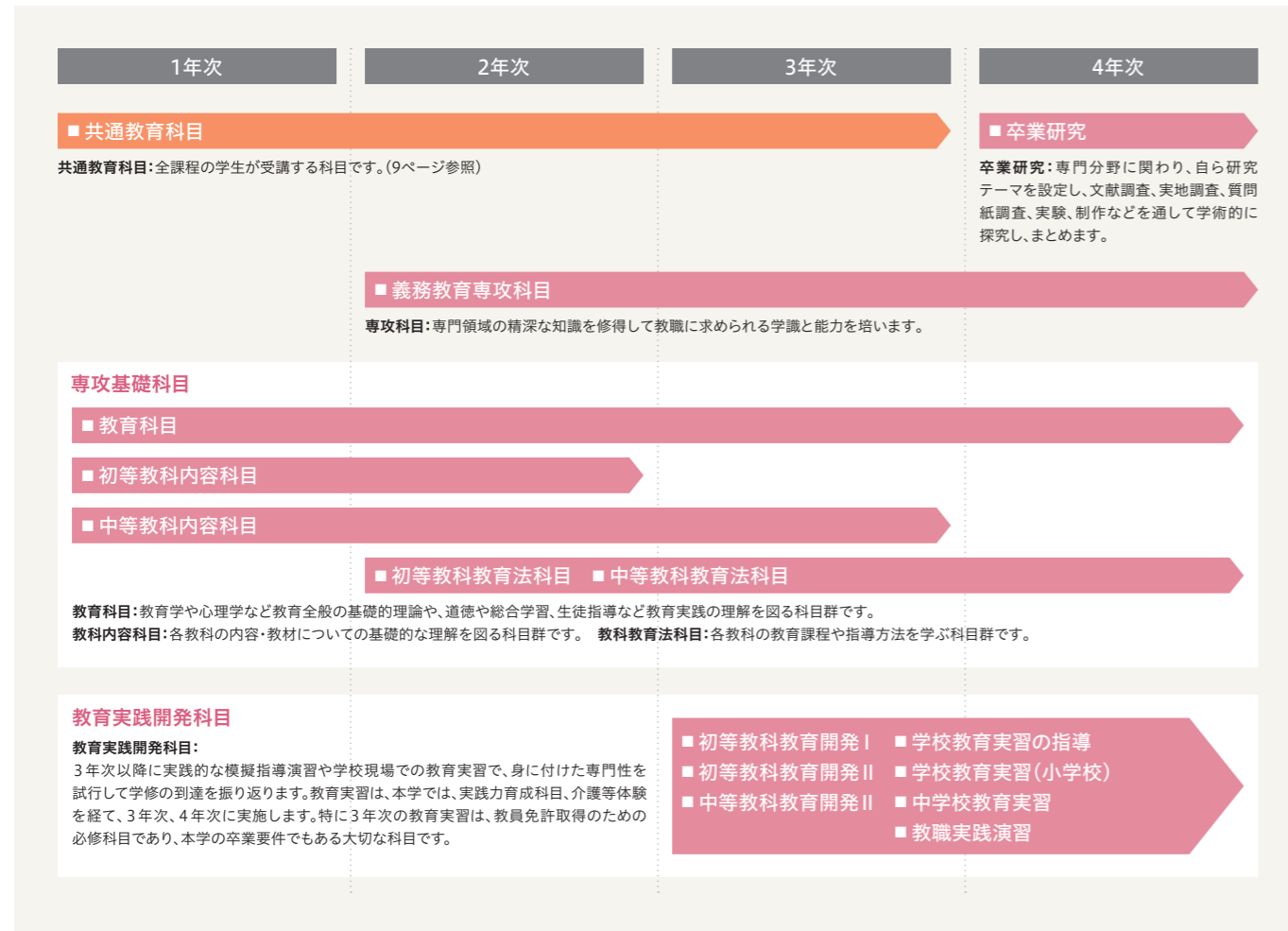
教師が児童に与える影響と責任の大きさとともに、
なりたい気持ちを再確認できました。

「学校体験活動Ⅰ」では、小学校の日常を体験しながら、授業の補助や音楽の授業でピアノ伴奏などを行いました。印象に残っているのは、算数の授業についていけない児童に割り算を教えたときのこと。児童と一緒に根気よく問題に取り組み、少しずつ解けるようになっていったのですが、授業後に「先生のおかげで分かるようになった！ありがとう」と言ってもらい感激しました。体験を通じ、「子どもと接することが好き」だと改めて感じるとともに、教師が児童に与える影響と責任の大きさを実感しました。また、自分の目指す教員像に近づくためには、まだまだ知識や経験が足りません。本学では、教育に関わる貴重な経験がたくさんできるので、存分に生かして学びを深めていきたいです。

学校教員養成課程4年間の学び

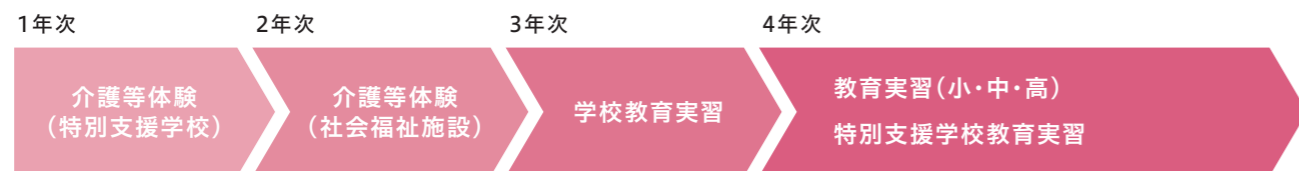
義務教育専攻教科指導系10専修における履修例

- 共通教育科目
- 専門教育科目



教育実習、介護等体験

学校教員養成課程では、教員免許取得のため、1・2年次に「介護等体験」を、3・4年次に「教育実習」を行います。



■ 介護等体験 | 1・2年次 小・中学校の教員免許取得に必須

体験的学修として小学校および中学校の教育職員免許状(教員免許)を取得しようとする者が必ず履修しなければならないものです。一般的な介護等体験の内容は、障害者、高齢者等に対する直接的な特別支援、介護、介助だけでなく、話し相手、散歩の付き添い、行事の補助などの交流等の体験など幅広い活動が予定されています。体験内容はそれぞれの学校、施設等で異なります。

■ 学校教育実習 | 3年次 必修

卒業要件として履修が必須の教育実習です。「学校教育実習」では、実習態度や、幼児・児童・生徒の理解と指導、学級・保健室経営や保育活動、道徳指導について特に重視をした実習を行います。

■ 学校種別実習 | 4年次 選択 ※ただし、特別支援教育専攻学生は必須

学校教育実習とは別の校種の教育実習です。学校教育実習での経験を生かしつつ、さらに学生が専攻する専門性に則った学習指導の個人立案や、自己課題の解決活動について特に重視をした実習を行います。

教育実習

先輩Voice



学校教員養成課程 義務教育専攻
算数・数学専修4年
愛知県立蒲郡東高等学校出身

授業をつくりあげる難しさを実感すると同時に「もっといい授業をしたい」という意欲も!

教育実習が始まる前は不安な気持ちでいっぱい、「失敗したらどうしよう」と緊張していました。一方で、同級生相手の模擬授業ではなく、実際に子どもたちを相手に授業ができることに楽みな気持ちもありました。実習先では、試行錯誤しながら指導案を作成し、授業を实践。一つの授業をつくりあげる大変さを実感しながらも、自分の授業で子どもたちが「分かった!」と反応してくれたときは、とてもうれしかったです。同時に、子どもの学びや成長を一番近くから支え、見届けられる教員という仕事の魅力に改めて気付けたことも大きな収穫でした。実習最終日が近づくころには「卒業するまでいてほしい」と言ってもらえるくらい良好な関係を築くことができ、積極的に関わってきてよかったと感じました。また、現場の先生方の指導法や豊富な知識・技能を間近で見て学んだことも多く、少しでも近づけるよう努力を重ねていくつもりです。

教育実習

先輩Voice



学校教員養成課程 義務教育専攻
保健体育専修4年
愛知県立西春高等学校出身

児童の前で授業を重ねるうちに、自分なりの声掛けや授業展開を実践できるようになりました。

教育実習で配属された小学2年生のクラスは、ノートへの記入や問題を解く時間の個人差が大きく、初めは授業の時間配分や集中させるための声掛けに苦労しました。回数を重ねていくうちに、少しずつですが自分なりの声掛けや授業展開を実践できるようになりました。子どもたちから「分かりやすいからもっと先生に授業をしてほしい」と言ってもらえたときは、とてもうれしかったです。印象に残っているのは、校長先生からいただいた「教師は想定内を増やしておくことが大事」というお話です。授業中、何が起ころても落ち着いた対応ができるよう、常にアンテナを張り、新しいことを学ぼうとする姿勢を持つことが大切なのだと感じました。本学は教員志望者が多く、教員を目指す人にとって恵まれた環境が整っていると思います。同じ志をもつ仲間存在に励まされることも多く、実習終了後は各学校の違いや体験談を交換し、互いに学びを深めることができました。

教育実習

先輩Voice



学校教員養成課程 高等学校教育専攻
英語専修4年
岐阜県立多治見北高等学校出身

一回の授業に込められた、たくさんの思い、そして本気で取り組むことの大切さを学びました。

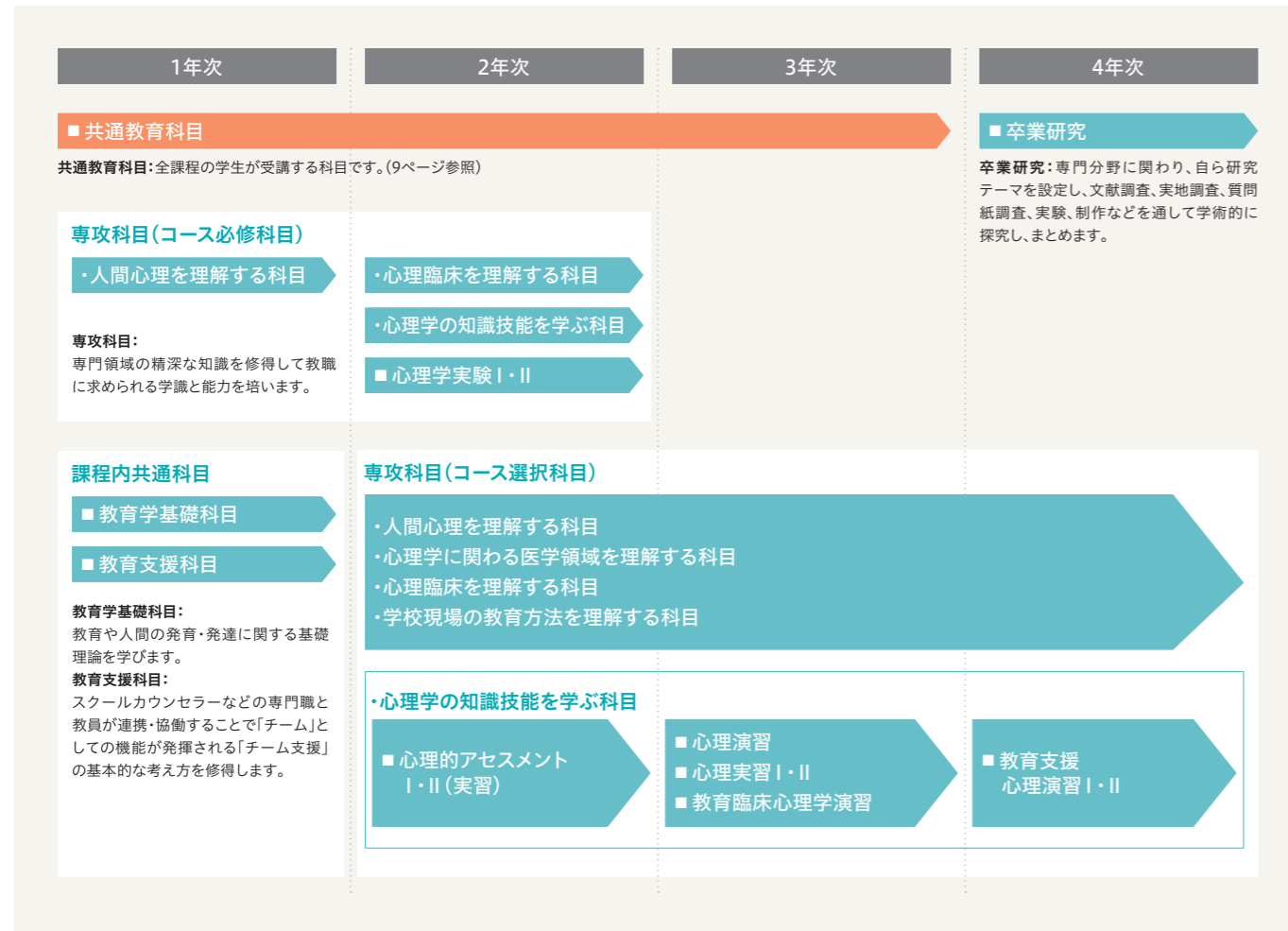
中学校等で約3週間の教育実習を経験しました。1年生のクラスに配属され、専門教科と道徳の授業、学級運営を担当。実習中に行う授業は、授業前日までに指導案を完成させる必要があり、指導案の書き方から授業の構成、進行のアドバイスまで、先生方には親身に指導いただきました。全七回の授業を担当する中で感じたのは、たった一回の授業にも教員の思いや願いが数多く込められていること。そして、その授業にどれだけ本気になれるかが大切だということです。正直、実習中は大変なことも多かったのですが、子どもの喜ぶ姿を見られるのは何よりもうれしく、授業後にある生徒から言われた「先生、授業楽しかった!」という何気ない一言が、今も心に強く残っています。実習を通して、子どもたちと直に触れ合い、共に学んでたくさんのエネルギーをもらい、「教師になりたい」という思いは、以前にも増して大きなものになりました。

教育支援専門職養成課程4年間の学び

心理コースの履修例

■ 共通教育科目

■ 専門教育科目



心理実習、福祉実習、学校・自治体インターンシップ等

教育支援専門職養成課程では、主に3年次に「心理実習」、「福祉実習」、「学校・自治体インターンシップ」等の実習科目を開設しています。これらの実習は卒業要件ではありませんが、「心理実習」は公認心理師、「社会福祉実習」は社会福祉士試験の受験資格取得のために必要となる科目です。

教育支援専門職養成課程で目指せる資格、取得できる資格については15ページ参照

コース	主な学外実習科目	実習時期	実習の概要
心理コース	心理実習Ⅰ	3年次前期	保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働の5領域における見学等の実習を行います。この実習を通して、①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携および地域連携、③職業倫理および法的義務についての概要と実際を理解することを目標としています。
福祉コース	社会福祉実習Ⅰ	2年次後期	それまで学んだ社会福祉に関する知見を、児童・障害・高齢領域などの現場での実習を通して理解を深めます。ソーシャルワークが必要とされる現場の理解、ソーシャルワークの知識・技術を実習から理解します。さらに、教育現場でのスクールソーシャルワーク実習も行います。
	社会福祉実習Ⅱ	3年次前期	
	スクールソーシャルワーク実習	4年次後期	
教育ガバナンスコース	学校・自治体インターンシップ	3年次前期	学校・自治体等において、教育行政や学校事務のマネジメントや職務の遂行に関わる体験を通して、大学でのキャリア教育・専門教育を推進するとともに、大学での教育研究・学修と学校・自治体での体験を結び付けることを目標としています。

心理実習 先輩Voice



教育支援専門職養成課程
心理コース4年
三重県立四日市高等学校出身

患者さんの幸せを決めるのは患者さん自身。
だからこそ、心に寄り添える力を磨いていきたい。

精神科病院、特別支援学校、児童福祉施設、少年院と、さまざまな施設での実習を経験。各施設を見学したり、現役心理職の方からお話を伺ったりするなど、座学では得られない貴重な経験ができました。メンタルクリニックの実習では、数十年にわたり長期入院をしているためスマートフォンやICカードも見ることがなく、病院の外の世界を知らない患者さんも珍しくないことを伺って驚きました。「このまま退院しないほうが、患者さんは幸せなのではないか」とも思いましたが、患者さんの幸せを決めるのは患者さんご自身です。勝手に決めつけてしまった自分の未熟さを痛感すると同時に、私自身はまだ心理学を少し学んだに過ぎない学生なのだと思えました。ただ、そんな自分を自覚できたことも、実習における大きな学び。今後の学生生活の中で、知識と経験を重ねて、困っている人の心を少しでも軽くできる実力を身に付けていきたいと思えます。

福祉実習 先輩Voice



教育支援専門職養成課程
福祉コース4年
愛知県立岡崎北高等学校出身

患者さんとの信頼関係の大切さを実感。
実習を通じて「なりたい」気持ちが強くなりました。

実習では、医療ソーシャルワーカーの業務を間近で見て学ぶと同時に、実際に患者さんを担当し、面談や経過観察、院内での他職種との連携、地域の高齢者施設との連携などを経験しました。印象に残っているのは、それまであまり話してくれなかった患者さんが、ご自身の思いを話してくださるようになったこと。その方が本当に求めていた支援が明確になり、感じていた「なぜ？」も解消。気持ちがスッキリしたことを覚えています。支援を通じて一歩ずつ、患者さんとの信頼関係を築いていくことの大切さと、そこで得られる達成感を味わうことができました。実習中、常に心掛けていたのは、実習担当者からの「感じる心と動ける体を大切に」というアドバイス。この言葉のおかげでちょっとした患者さんの言動や、そこに表れた患者さんのニーズに気づくことができたように思います。今後は、実習での経験と気づきを生かし、学びを深めていくつもりです。

学校・自治体インターンシップ 先輩Voice



教育支援専門職養成課程
教育ガバナンスコース4年
愛知県立豊田西高等学校出身

行政の最小単位は「人」。
人と人とのつながりで動いていることを実感しました。

市役所の実習では、市の教育政策とその政策決定のプロセスについてお話を伺うとともに、青少年相談センターでの児童・生徒との触れ合い活動などを経験。実習中は、自分も市役所職員の一員となることを意識し、関わる方々への礼儀や、社会人としての責任感をもつよう心掛けました。実習を通して一番感じたのは、行政の最小単位は「人」だということ。実際に市役所の中に入って見て、行政は人と人とのやりとりで動いているのだとよく分かりました。教育政策の決定においても、教育委員や議員、市民などさまざまな人が関わっており、調和を図りながら物事を進めていく必要があると感じました。教育ガバナンスコースでは、教育支援専門職になる上で必要な幅広い視点での教育現場の支援や、多様な人々が協働する場での意思決定の進め方を学んでいますが、この実習を通じて人と人とのつながりやコミュニケーションを大切にしていきたいと改めて感じました。